

## 平成30年度家庭教育応援プロジェクト 第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議

□ 日 時

平成30年6月15日(金)

13:30~16:30

□ 会 場

郡山合同庁舎南分庁舎 第2会議室

福島県教育委員会では、「本県の家庭教育推進上の大きな課題である『親の学び』を支援する」ことを目的として、平成26年度より「地域でつながる家庭教育応援事業」を実施しております。事業計画に「家庭教育応援プロジェクト」を位置付け、「福島県地域家庭教育推進協議会(年2回)」「地域家庭教育推進県中ブロック会議」「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業推進活動」「フォローアップ研修」を実施していきます。



「地域家庭教育推進県中ブロック会議」は、県内7地区において、各地域の現状を把握し、課題を整理した上で各支部PTA連合会との連携により、各家庭における実践へとつなげていくことをねらいとしております。学校・家庭・地域が連携し、家庭教育の推進、子どもたちの生活習慣の向上、課題解決に向けての実践的な活動がなされるよう、PTA、学校支援者、地域の子どもたちに関わっている諸団体、家庭教育支援者、企業の代表者等による「地域家庭教育推進ブロック会議」を設置し協議を行っています。

今年度の第1回となる本会議では、福島県地域家庭教育推進協議会でも話題となった「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」について、県中教育事務所指導主事より説明を行いました。また、「地域や学校の現状と課題」というテーマで協議を行い、現状と課題を踏まえ、推進委員としてどのように活動していくかについて、活発な意見交換を行いました。

### 【出席者】

- 県中ブロック会議アドバイザー(学識経験者)
- 家庭教育支援県中協議会会長
- 須賀川市家庭教育インストラクター
- 郡山青年会議所青少年育成委員会委員長
- 須賀川市社会福祉協議会岩瀬支所長
- 郡山警察署生活安全課少年係専門少年補導員
- 県中児童相談所相談判定課副主任児童福祉司
- 田村市保健福祉部こども未来課主任主査兼子育て応援係長
- 郡山市PTA連合会出納長(郡山市立薫小学校PTA会長)
- 岩瀬地区PTA連合会会長(須賀川市立阿武隈小学校PTA会長)
- 石川郡連合PTA会長(石川町立石川中学校PTA会長)
- 田村地方PTA連合会会長(田村市立都路中学校PTA会長)

(欠席:家庭教育推進アドバイザー、かがみいしスポーツクラブ理事長、郡山市主任児童委員)

□ 日 程

時 間	内 容	
13:30～	開 会 行 事	○ 主催者あいさつ ○ 所員自己紹介 ○ 日程説明
13:40～	自 己 紹 介	○ ブロック会議推進委員自己紹介
13:45～	経緯と現状説明	○ これまでの経緯説明と今年度の取組について
14:10～	事 業 説 明	○ ふくしまの「家庭学習スタンダード」について 県中教育事務所学校教育課 指導主事 新田展弘
	休 憩	
15:10～	協 議	○ 「学校や地域の現状と課題」 ・ 地域や学校の現状 ・ 地域や学校の課題 ・ ブロック会議推進委員として今後取り組んでいくこと
16:20～	提 案	○ 「家庭教育応援プロジェクト（県中版）」について
16:25～	そ の 他	○ 今年度の取組について
16:30	閉 会 行 事	○ 御礼のことば ○ 諸連絡

## 事業説明

### 「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」について

県中教育事務所学校教育課 指導主事 新田展弘

- ふくしまの「家庭学習スタンダード」（平成29年12月）  
家庭学習に対する学校と家庭・地域がそれぞれの役割をお互いに理解し、連携・協力して児童生徒を指導・支援することを通して、家庭学習の質の向上を図っていくことを目的に作成。  
ふくしまの「授業スタンダード」（平成29年4月）  
授業の基本的な流れや留意点、校内研修の充実のための内容や次期学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の視点等を盛り込み、教員一人一人の授業の質的改善と指導力向上を目的として作成し、活用・実践している。  
「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」と「ふくしまの『授業スタンダード』」をあわせて「学びのスタンダード」とし、車の両輪のように活用。
- 福島県の教育の現状分析－SWOT分析のバックデータ集－より
  - ・ 読書量の経年変化  
10年間の推移では小学生の読書量は2倍以上、中学生は1.5倍以上に増えている。平成23年度調査以降で比較すると大きな変化は見られない。
  - ・ 家族形態の変容  
単独世帯と核家族世帯が増加。1世帯あたりの人数が減少。  
子どもにとって祖父母などからの学びの機会の減少。
  - ・ 家庭の教育力  
約8割の親が家庭の教育力が低下していると実感。
  - ・ 家庭での学習習慣の確立

家で学校の授業の復習をしている児童生徒の割合は増加傾向にあり、全国平均を上回っている。

「全くしていない」と答える児童生徒の割合は、全国平均と比較しても1/2程度。

- ・ 家庭での学習時間と学力のクロス分析  
家庭での学習時間が長い子どもほど、学力調査の得点が高い傾向にある。
- 家庭学習に関する課題
  - ・ 学習の仕方が分からない。
  - ・ 宿題についての教職員の共通理解がない。
  - ・ 家庭学習の内容が、知識・技能面に偏っている。
- 「自己マネジメント力」の必要性
  - ・ 家庭での学習環境が整っていない（学習を阻害する要因が多い）中で学習しなければならない。
  - ・ 自分でペース配分をすることが難しい。
- 保護者に期待すること（家庭・地域の3つの視点）
  - ・ 心の支え（サポーターとしての心の支え）
  - ・ 環境づくり（ファシリテーターとしての環境構成）
  - ・ 習慣づくり（ペースメーカーとしての習慣形成）



#### <質疑・意見>

- ・ 読書量が増加したのはなぜか。  
→ 読書量の調査を開始したことで、意識が高まったのではないかと。しかし、震災以降伸びていない。
- ・ 福島県PTA連合会長からのメッセージ「今こそ必要、大人の背中」が目を引く。大切にしていきたいメッセージである。「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」をどのようにして浸透させていくのか。  
→ パイロット校、推進協力校での取組を広げていく。
- ・ 読書量の増加は、社会教育関係団体の取組の効果も大きい。須賀川市の場合は、中学校区ごとに司書を配置し、読書活動を推進している。
- ・ 「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」は児童生徒のいる家庭への配付だったが、家庭教育インストラクターなど、社会教育に携わっている団体や個人へも配布していただきたかった。今後、ホームページからダウンロードして活用していきたい。
- ・ 小学生に子どもがいるが、正直よく見ていなかった。学校でも継続して、繰り返し、子どもたちに指導していただきたい。家庭や地域の研修会等でも活用していきたい。

## 協 議

### 「地域や学校の現状と課題」

議長: 県中ブロック会議アドバイザー 滝田良子 氏

- 4～5名の小グループに分かれて以下の3点について協議を実施。
  - ・ 地域や学校の現状。
  - ・ 地域や学校の課題。
  - ・ ブロック会議推進委員として今後取り組んでいくこと。
- 協議記録  
(Aグループ: 学識経験者、家庭教育支援者、家庭教育インストラクター、社会教育主事)  
[現状・課題]
  - ・ 基本的な生活習慣を習得する機会が少ない。
  - ・ 核家族化、教育力の格差、家庭内での事なかれ主義、自分中心の親、少子化、地域コミ

ユニティの希薄化。

- ・ 子どもを学校や放課後子ども教室、児童クラブに預けっぱなしにしている親もいる。

[今後の取組]

- ・ 地域の行事・活動等へ親や家庭を巻き込んでいくかの働きかけ。
- ・ 中学生・高校生などを地域の行事にボランティアとして活用。

(Bグループ：企業代表、社会福祉協議会、児童相談所、保健福祉部、社会教育主事)

[現状・課題]

- ・ 人の出入りの激しい地区であり、住民同士の交流が少ない。
- ・ 核家族化。
- ・ 親の教育力の低下。
- ・ 学校と親の困り感の相違（親の困り感の欠如）。
- ・ 携帯・スマホの普及による様々な問題の発生。

[今後の取組]

- ・ 地域のよさを伝え、気付かせ、愛郷心を育てていく働きかけ。
- ・ 行政として、子どもの健やかな成長の支援と保護者の負担軽減への働きかけ。
- ・ 地域に積極的に入り込んで働きかけを行っていく。
- ・ 親子がふれ合う時間を意図的に確保していく。
- ・ 公民館事業への参加促進。
- ・ 元気なお年寄りへの協力依頼（地域からの見守り）。

(Cグループ：PTA関係者、社会教育主事)

[現状・課題]

- ・ 原発事故による避難者や少子化による子どもの数の減少。
- ・ PTA行事への出席率の低下。
- ・ 授業参観には参加するが懇談会には不参加。
- ・ 親同士のつながりの希薄化。
- ・ PTA行事の削減と無関心。

[今後の取組]

- ・ PTA役員として、親同士、学校と親のネットワークづくり。
- ・ 学年行事等の開催による親同士がつながるきっかけづくり。
- ・ 親子のコミュニケーションを意図した行事の開催。
- ・ PTAとしてマンネリ化しないようにしながらの地道な活動の展開。

#### ○ アドバイザーより

先日、学生に対して「専門職に求められていること」についてアンケート調査を実施したところ、「道徳・ルール」という評価が割に低かった。学生にとって「道徳・ルール」について重視していない傾向にあることを感じた。また、子どもが公共のものを壊してしまっても、親はスマホの操作に夢中でそのことには無反応だったという事例を目のあたりにして、子どもの言動に対して無関心な親が身近にもいるのではないか。更に、「子は国の宝」だというのが、虐待などのニュースを見るたびに、すべての親がそう思っているのか疑問に感じざるを得ない。

先ほど、推進委員の皆様が、3グループにわかれ「現状・課題」そして「今後の取り組み」について話し合いをしましたが、今後のあり方として非常に大切な内容だったのではないのでしょうか。「心と身体の健康の健全な育成」「家庭を支えていく」ことがブロック会議推進委員の役割であると思われます。ぜひ、「子どもを真ん中に、活動を展開していくためにも、推進委員おひとりお一人がそれぞれの立場で、本日話し合われましたことを実践されること



に期待しております。

## 提 案

「家庭教育プロジェクト（県中版）」について

# 【家族参加でコミュニケーション！】

『我が家のアクション』 できることから取り組もう！

- 取組1 「あいさつ」の輪をひろげよう  
「おはよう」から一日をスタート。あいさつは家族・社会の一員としての第一歩！
- 取組2 「早寝早起き朝ごはん」国民運動  
規則正しい生活は、子どもの健やかな成長の基本の基本！
- 取組3 親子で「スポーツ」  
体力向上だけじゃない。親のメタボ解消、親子のふれあいを定期的に！
- 取組4 我が家の「ノーメディアデー」  
親も子もスマホを置く勇気を。新たな発見がきっとある！
- 取組5 「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」  
家庭学習を通して「自己マネジメント力」を！

「今年度の取組」について

- 今年度も「家庭教育応援プロジェクト（県中版）」「我が家のアクション」を活用し、家庭教育の推進を図っていく。
- 基本的な生活習慣の向上には「コミュニケーション」がキーワードである考え、「親子のふれあい」「体力向上」「メディアコントロール」について「親子の学び応援講座」を実施するが、可能な限り推進委員も参加し、啓発を図っていく。
- フォローアップ研修や家庭教育支援者全県研修等に可能な限り参加し研修を積む。
- 「家庭教育応援企業推進事業」について啓発をし、登録を呼びかける。
- 本会議の取組について各推進委員それぞれの立場で実践、支援していく。

## その他

- 第2回ブロック会議について  
1月18日（金）開催
- 「親子の学び応援講座」「各種研修会」等について  
ブロック会議推進委員にその都度案内。
- 情報交換会（中間報告会）  
10月19日（金）に開催予定

